

第2回 学校施設と他の公共施設等との複合化検討部会

さいたま市

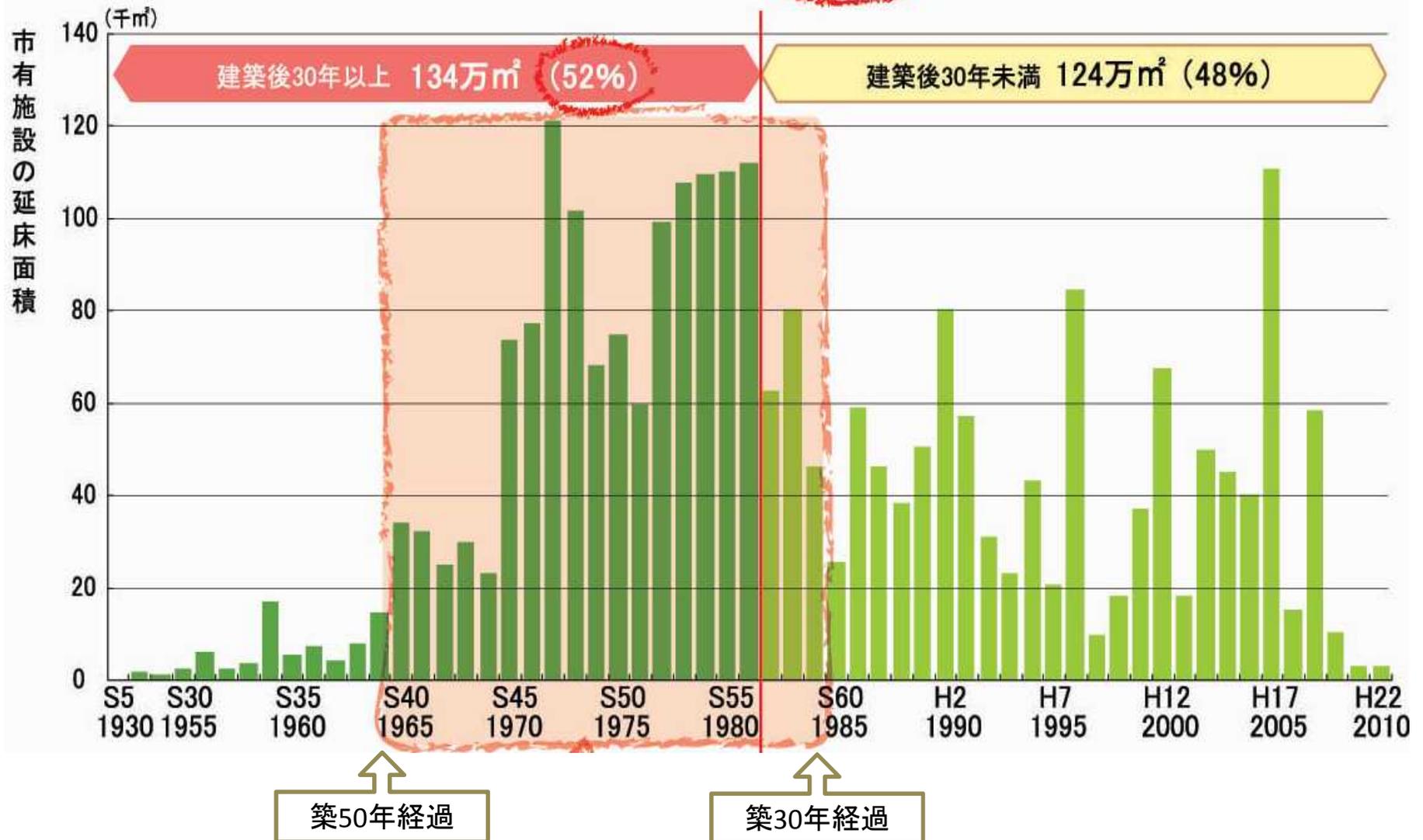
公共施設マネジメントの取り組み



志村秀明（芝浦工業大学）

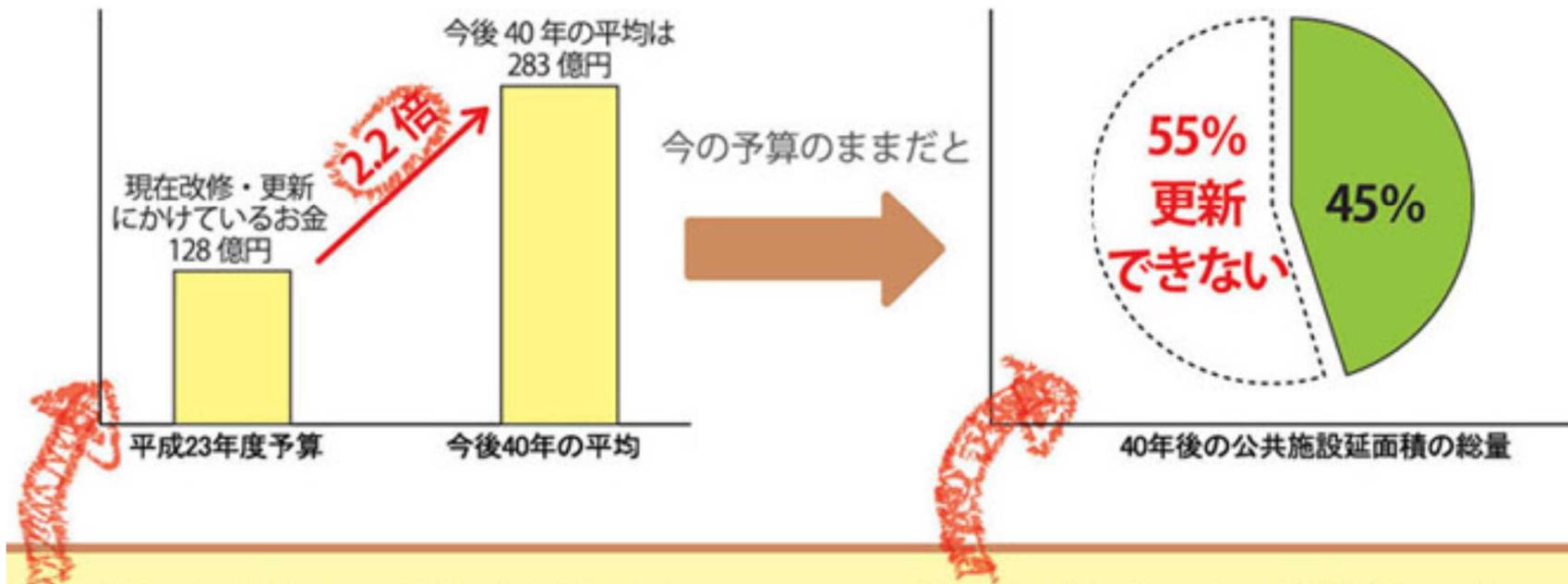
さいたま市の公共施設の現状

総延床面積：約260万 m^2



さいたま市の公共施設の現状

現状と今後40年の平均との比較



これからの 40 年間は、
1 年当たり現在の 2.2 倍
の経費がかかります。

今のままの予算額でいくと、
今ある公共施設の 45% しか
更新できません。

※ 「地方公共団体の財務分析等に関する調査研究報告書 平成23年3月(財団法人自治総合センター)の
算定根拠を参考に試算

さいたま市公共施設マネジメント白書 同 方針 同 計画

全体目標① ハコモノ三原則

ハコモノ三原則

- 新しい施設は原則としてつくりず、今の施設を有効活用する。
- 施設を建てかえる場合には、ほかの施設とまとめてつくり直す。
- 今の施設の床面積を60年間で15%程度減らす。

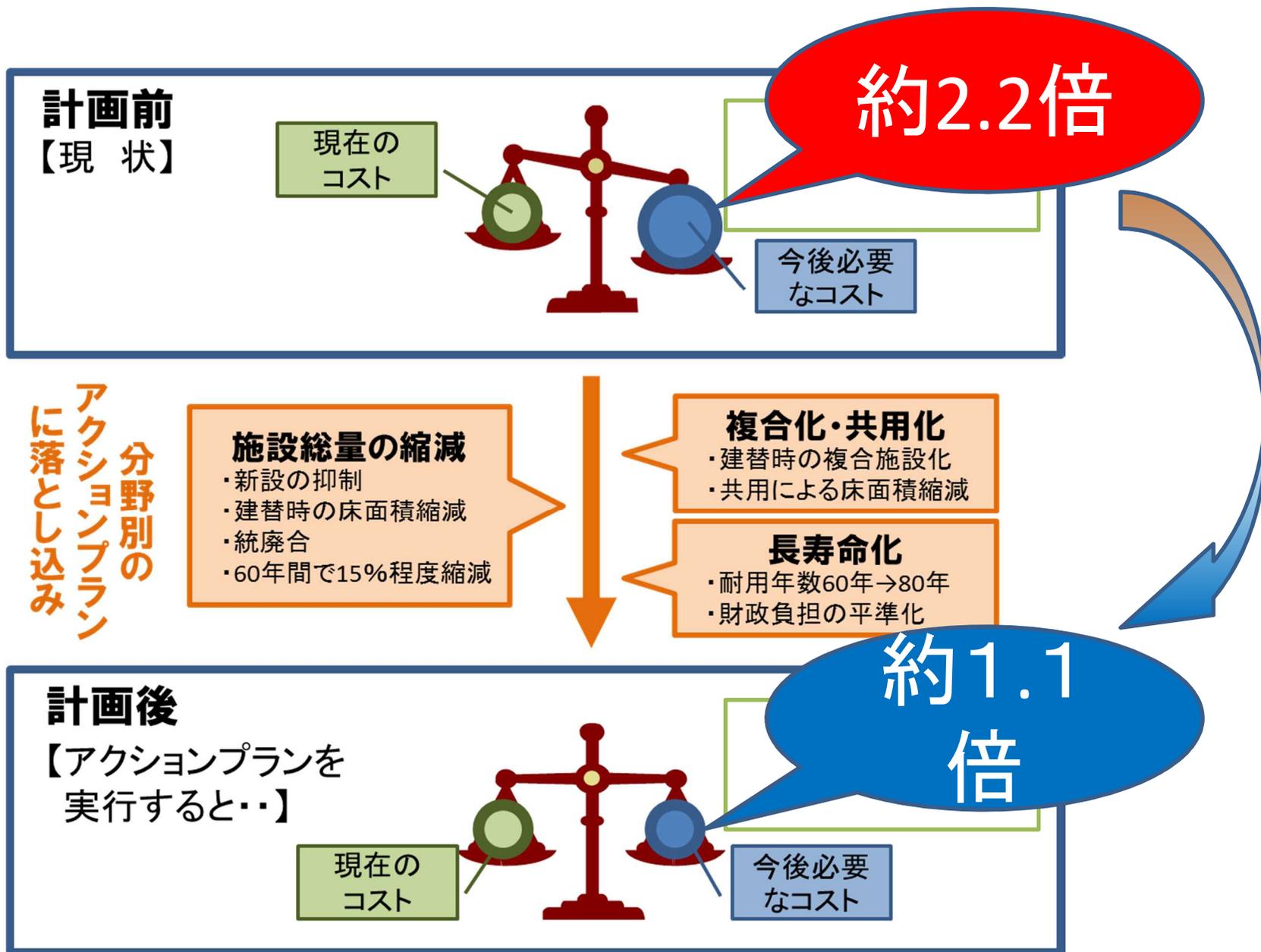
複合化

さいたま市公共施設マネジメント計画

第1次アクションプラン(平成26～32年)

施設分類	個別方針(更新時の方向性)
プラザ・コミュニティセンター	区レベルの施設とし、2施設以内の配置を原則とする。1施設当たり、プラザは5,000㎡、コミュニティセンターは2,500㎡を上限に規模を検討する。
公民館	地区レベルの施設とし、自治会連合会地区単位で1施設の配置を原則とする。1施設当たり、拠点公民館は900㎡、地区公民館は750㎡を上限に規模を検討する。
小学校	人口動態等を踏まえて、長寿命化を図ることにより規模を縮減する。※各期末で延床面積縮減の達成目標を設定する。第1期末(～H32)⇒0%、第2期末(～H42)⇒-1.2%、第3期末(～H52)⇒-4.1%、第4期末(～H62)⇒-5.2%

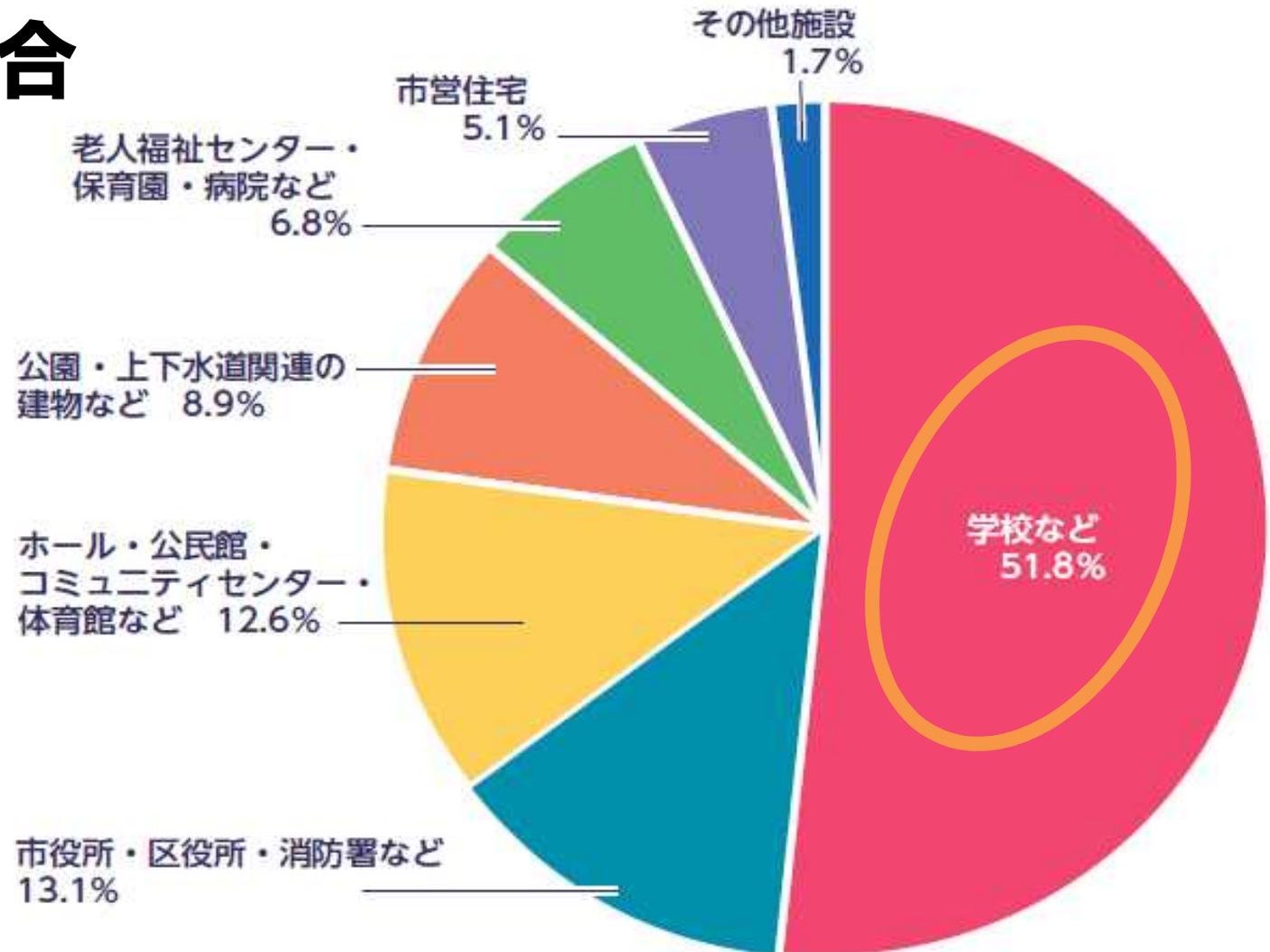
さいたま市公共施設マネジメント計画



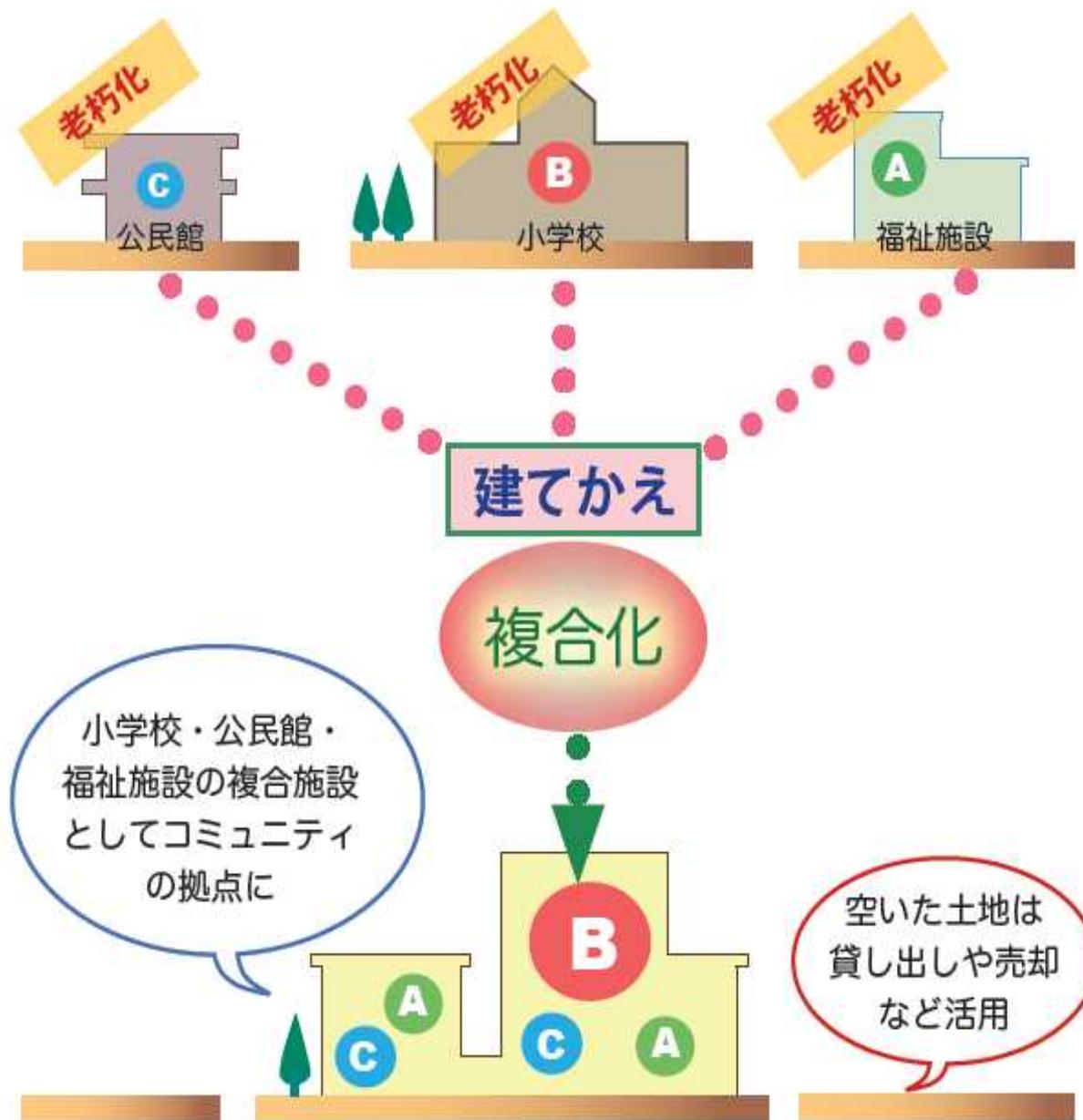
さいたま市の公共施設の現状

学校が半分を占める（築30年以上が大半）

建物の割合 （床面積）



公共施設(小学校)の複合化イメージ



市民との協働による推進 モデルケース(ワークショップ)の実施

平成24年度

三橋小学校
地域で実施



平成25年度

与野本町小学校地域で実施



平成26年度9月～3月

与野本町小学校地域で本格実施

H27:基本計画⇒H28・29:設計⇒H30:工事着工
予定

平成25年度のワークショップの実施状況

モデルケース(ワークショップ)の実施

一緒に考えよう！わくわくする楽しい公共施設

設 与野本町小学校の老朽化が進行する校舎の
建替えを機に、周辺の公共施設との複合化
を検討

参加者：22名（公募市民8名、地区の市民等12名、
公共施設マネジメント会議市民委員2名）

期 間：平成25年9月から平成26年1月まで（6回開催）

ファシリテーター：芝浦工業大学教授 志村 秀明 氏

コメンテーター：千葉工業大学助教 倉斗 綾子 氏

与野本町小学校と周辺の公共施設



複合化検討対象施設

与野本町小学校と周辺の複合化候補施設

老人福祉センターいこい荘



与野本町小学校



与野本町デイサービスセンター



与野本町公民館



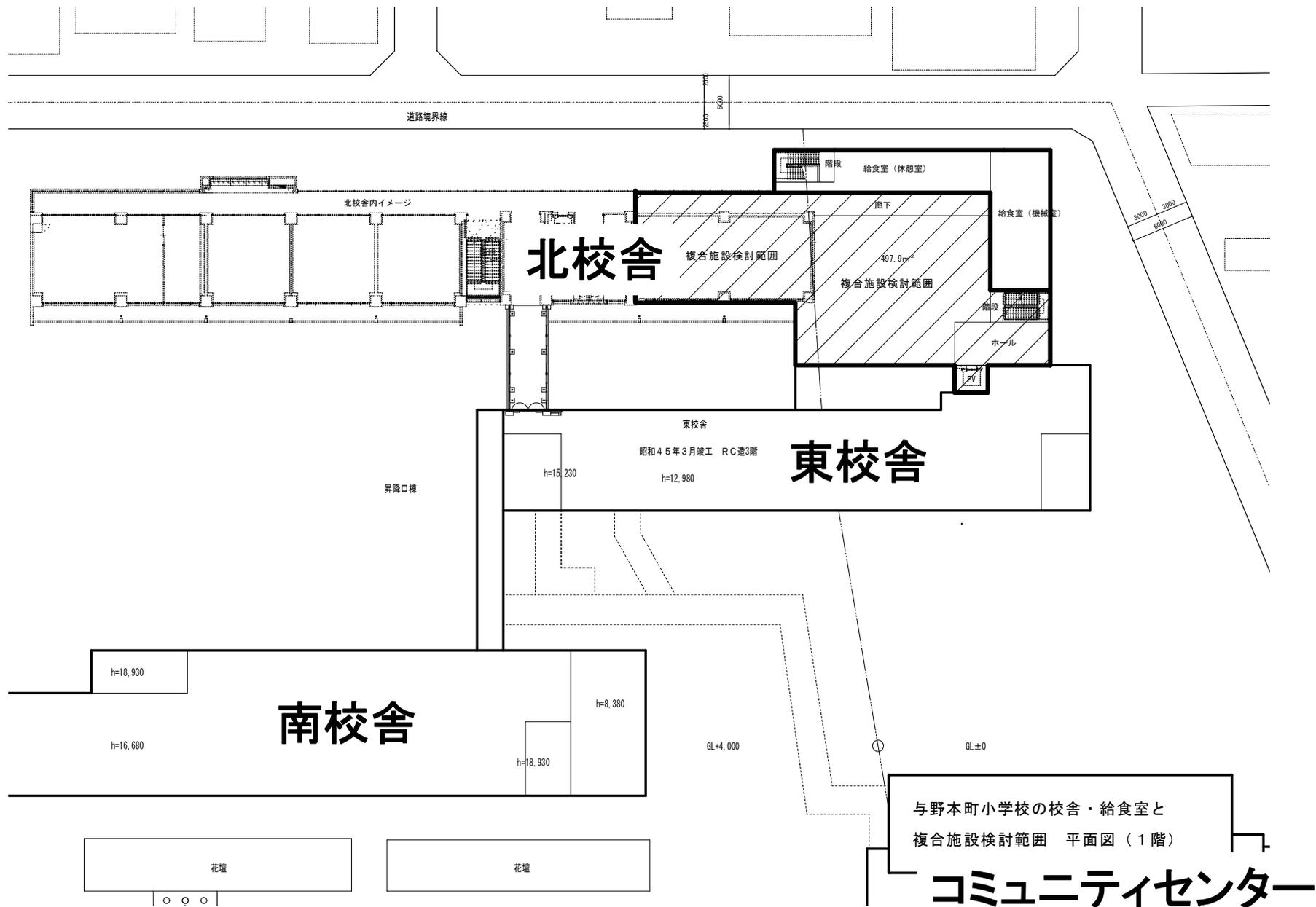
与野本町コミュニティセンター



与野本町放課後児童クラブ



与野本町小学校 校舎配置図



平成25年度 ワークショップのプロセス

基本 プログラム	タイトル	STEP1 目的確認 (キックオフ)	STEP2 先進事例の視察 (情報収集)	STEP3 対象施設での検討 (アイデアだし)	STEP4 計画案の 共有
	内容	参加者の自己紹介 ワークショップ説明 ミニワークショップ 公共施設再編説明	内容 事例視察 イメージづくり 参加者交流 情報交換 意見交換	内容 対象施設視察 問題の共有 再編対象の共有 計画案の検討 計画案の提示	内容 計画案説明 計画案再検討 意見交換 (施設職員と) 感想発表 (今後のこと)
	手法	アイスブレイク	手法 フィールドワーク ロールプレイ	手法 フィールドワーク シミュレーション (デザインゲーム)	手法 ディブリー フィング
		第1回	第2回 オプション	第3回 第4回	第5回

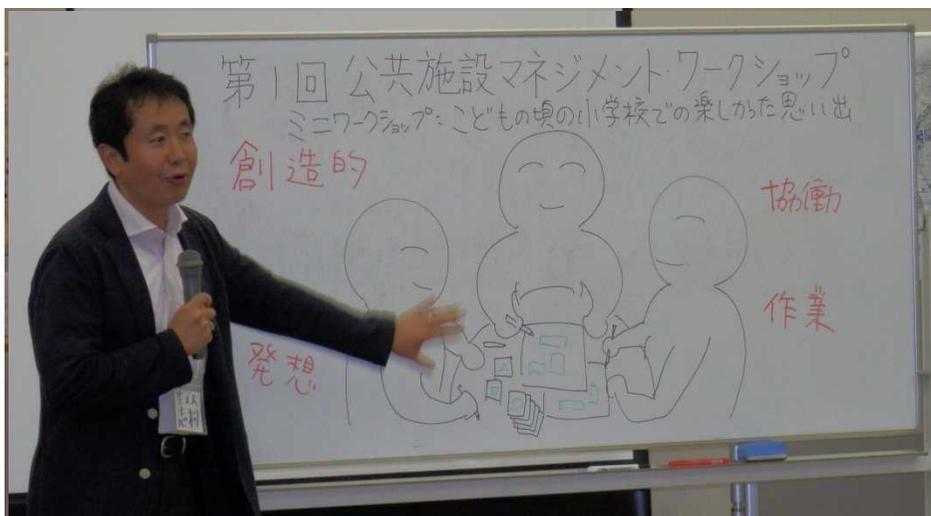
情報発信：ニュース発行、Facebook、パブコメ、パブリックミーティング、シンポジウム

第1回 キックオフ 平成25年9月27日(金)

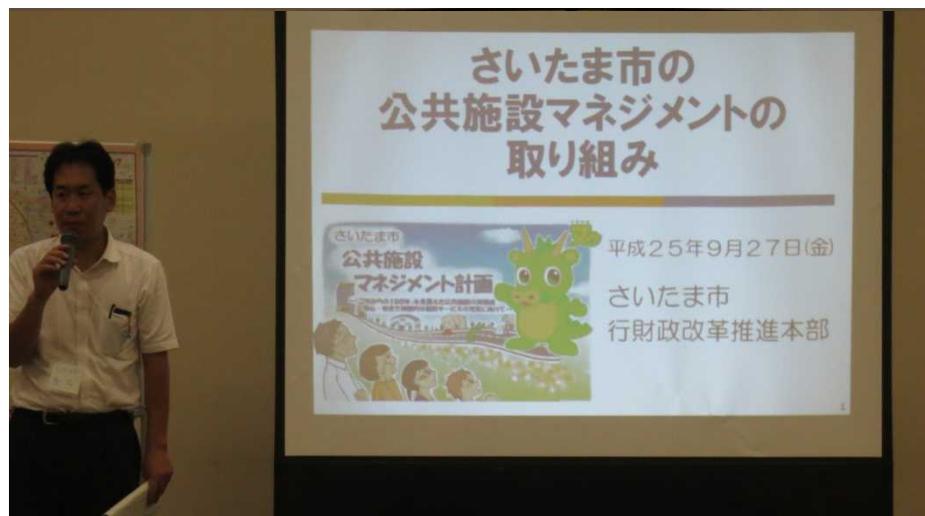
自己紹介



ワークショッププレクチャー



さいたま市の取組の説明



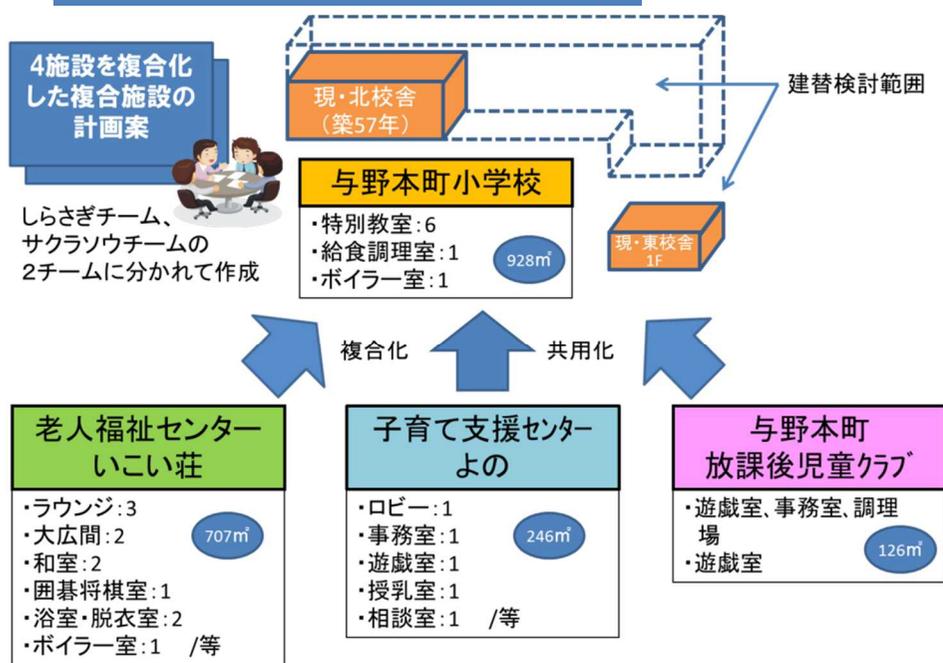
ミニワークショップ こどもの頃の小学校での楽しかった思い出を 絵に描いて発表しました。



第4回 アイディアだし 平成25年12月2日(月)

ワークショップ 与野本町小学校ほか5施設を複合化の検討対象として、平面図を使って機能配置案を検討しました。

デザインゲーム



■ 平面図に、各施設の機能(部屋)のカードを並べて、機能配置案を作成します。

「役割」の設定

各メンバーで下記の役割を分担し、それぞれの役割の立場で発言しました。

与野本町小学校

管理者(校長)

利用者(児童・保護者)

老人福祉センター
いこい荘

管理者

利用者

子育て支援センター
よの

管理者

利用者

与野本町
放課後児童クラブ

管理者

利用者

与野本町
コミュニティセンター

管理者

利用者



サクラソウチーム



しらさぎチーム

ルールプレイ意見

	管理者	利用者
小学校	<ul style="list-style-type: none"> ○P436のため一筆書きで同様の。 ○屋上はポール（購入し入れたい） 	<ul style="list-style-type: none"> ○学校施設と一般が利用できる施設を分けたい方がいい ○日影が増える反対の人がいる ○将来の見学の数に合わせて教室数に
いこい荘	<ul style="list-style-type: none"> ○馬車場を設置、施設との距離も近く。 ○防音設備（マス、カラオケ） ○学校は高層に位置に 	<ul style="list-style-type: none"> ○いこい荘と想いの家、今は送迎バスがないので、常連以外の使用は、送迎バスを復活したい。 ○小学校の様子が見えぬように欲しい。 ○地域に定着するきっかけ施設にしたい。
子育て支援センター	<ul style="list-style-type: none"> ○入りやすい（虫、気流）に入れるため、1Fへ ○子供の増えるしお目に入れてほしい。空地に虫の 	<ul style="list-style-type: none"> ○与野本町の児童はぜひ入れて欲しい ○交流スペースも設けて欲しい。 ○閉める際にも問題ない施設に。 ○基準と写すという。
放課後児童クラブ	<ul style="list-style-type: none"> ○子供の増える予想されるので、指導員にも基準、資格を求めたい。 ○一般児童と児童クラブの児童が交流できる施設（児童館のようなもの） 	<ul style="list-style-type: none"> ○馬車場をどう配置するか、多くの数を確保 ○馬車場なので利用者以外が使ってもらう。 ○中央区民を優先して使わせたいか？
コミュニティセンター	<ul style="list-style-type: none"> ○カラオケ利用者が多い。 ○（本音館、ポールは重層にしてほしい（防音 防振） ○振動を考慮して、上下の関係を調べるべき 	<ul style="list-style-type: none"> ○ハローワークなどを入れて、活気あるまちにできないか？

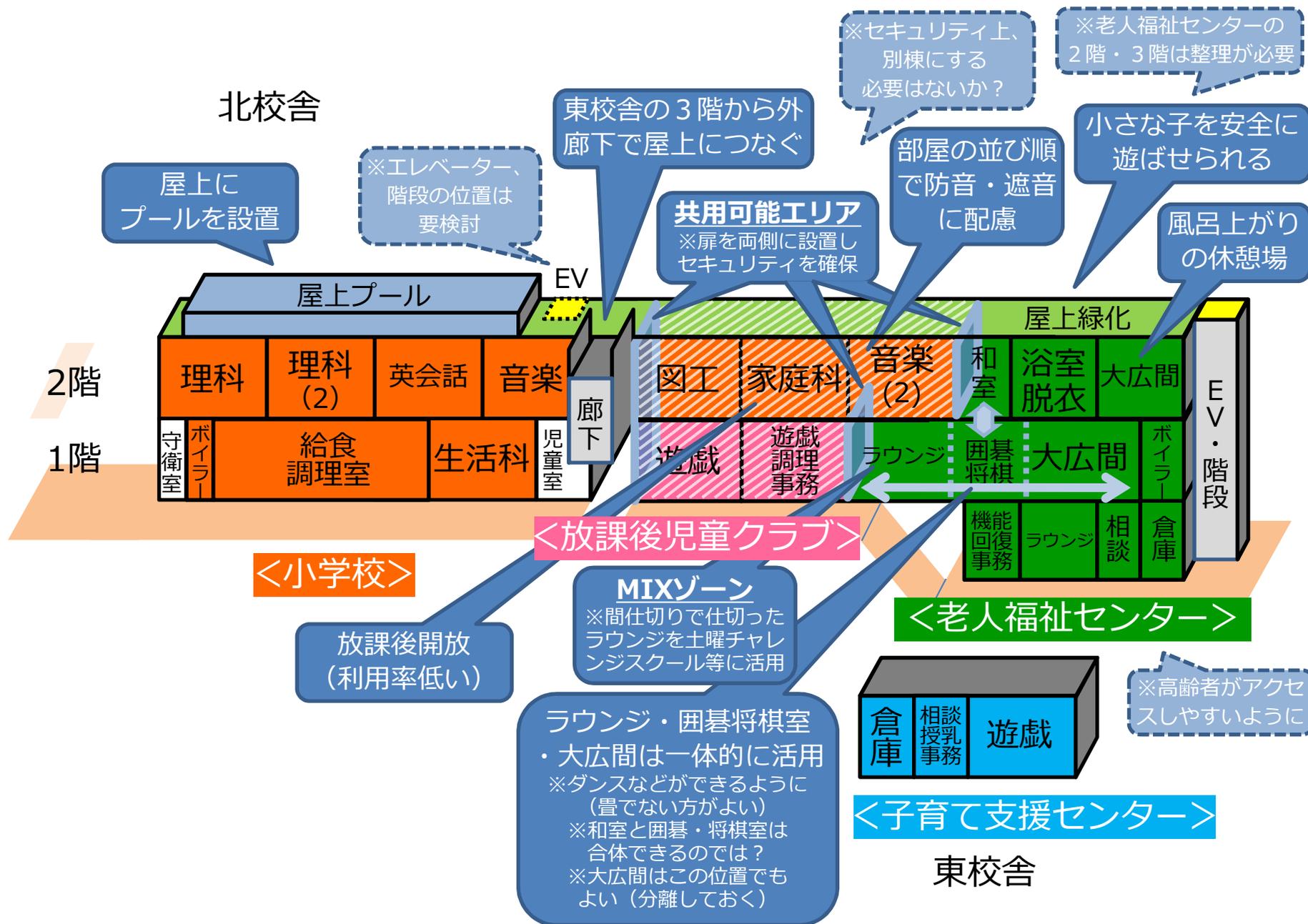
ルールプレイ意見

	管理者	利用者
小学校	<ul style="list-style-type: none"> ○給食室は全校に必要か？ →一般開放の（いこい荘）が活用 ○給食室のボイラ室→いこい荘に共用（さらに、地域暖房にも！）熱源 	<ul style="list-style-type: none"> ○音楽室→1F（騒音の問題）（防音壁がある！） ○2Fのボイラ室と2Fのボイラ室 ○出入口と北側にもつくる ○高齢者はのぼり下りやすい方がよい ○ラウンジはまとまるのどは ○広間は複数あった方がよい
いこい荘	<ul style="list-style-type: none"> ○施設利用者のことを考え、1Fにエレベーターを使うとコストがかかる。 ○動線を学校と分ける。 ○階段の段差低い。昇降しやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○小さな子どもとつながる2Fは ○屋上農園！
子育て支援センター	<ul style="list-style-type: none"> ○時間帯と利用を切り分る。 ○子供とおひさまの外と交流 	
放課後児童クラブ		
与野本町コミュニティセンター		





ワークショップ最終まとめ サクラソウチームの機能配置案



今後の展開・参加者の感想等

これまでの成果の今後の生かし方

このワークショップの内容をどうやって市民にPRするのか？
情報発信が大事

ワークショップの成果については、検討対象が限定的であることに留意して欲しい

施設職員等からの細かい内容を聞く前にワークショップで検討をしてきている

ワークショップ全体を通しての感想(参加者)

意見をまとめるのは
楽しい

いろんな世代の人の意見
を聞いてよかった

地元の人と交流できて
よかった

いろんな人がいるのが
さいたま市
であると思った

「わくわく」
市民の交流

現場の人の意見を
先に聞きたかった

1度施設について考えた
から現場の人の意見
がよくわかった

いいものを作って欲しい

皆さんの意見を聞いて
よかった本町小学校は
地域に愛されている

検討課題など

現場で働いている人
との温度差があった

子供ワークショップ、オープン
ワークショップの開催方法等
について更なる検討が必要

今まで公共施設について
考えていなかった

小学校という公共施設
の重要性を知った

実現化するのは市民の力が必要
ワークショップの過程を市民に共有すべき

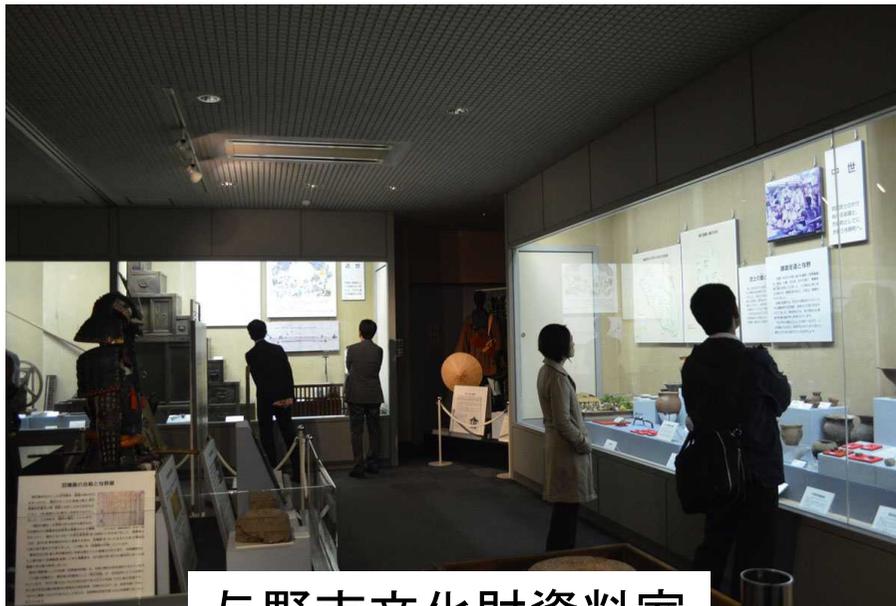
他の小学校との
かねあいはどうするか

0歳～高齢者が1つの
施設にするのは面白い
試みだと思う

公共施設への
意識

平成25年度から平成26年度の間

- さいたま市：日影規制の検討→2階建てまで建て替え後の床面積減少
- 地元市民：老人福祉センター「いこい荘」複合化への疑問・反対
- 地域学習の要望：与野文化財資料室が複合化の検討対象へ



与野市文化財資料室



子供の遊びに関する展示

平成26年度さいたま市公共施設マネジメント・ワークショップの実施(1)

目的 昨年度実施したワークショップで参加者が自由な発想でまとめた機能配置案をもとに、平成30年度に北校舎の建替着工予定である「さいたま市立与野本町小学校（既にコミュニティセンター、放課後児童クラブと複合化）」とその周辺にある公共施設のさらなる複合化を検討するワークショップを、参加者をはじめとした施設利用者や地域住民など、より多くの市民との意見交換を行いながら、模型づくりを通して当該地域にふさわしい複合施設をイメージし、合意を形成していくことを目的に実施するもの。市では、ワークショップで提案された意見やアイデアを踏まえ、基本計画の策定を予定している。

ワークショップ名 一緒に考えよう！わくわくする楽しい公共施設
『与野本町学校を核とした複合施設を考えるワークショップ』

開催回数 ワークショップを5回（H26. 9. 25～H27. 3. 14）
※別途、本年度からの参加者を対処とした説明会を1回（H26. 9. 18）

開催会場 さいたま市与野本町コミュニティセンター

参加者 24人 公募市民10人、地区の市民等（PTA3人、自治会など8人）
運営事業者1人、マネジメント委員2人
※昨年度ワークショップ参加者含む

平成26年度さいたま市公共施設マネジメント・ワークショップの実施(2)

開催日時	説明会	平成26年 9月18日(木) 18:30~19:30 テーマ:本年度からの参加者へのオリエンテーション
	第1回	平成26年 9月25日(木) 18:30~20:30 テーマ:昨年度のWSと成果について振り返る(WS)
	第2回	平成26年10月23日(木) 18:30~20:30 テーマ:新条件で複合施設を検討する(WS)
	第3回	平成26年11月30日(日) 10:00~12:00 テーマ:複合施設の機能配置を語り合おう(PM)
	第4回	平成27年 1月22日(木) 18:30~20:30 テーマ:施設の再編と運営をまとめる(WS)
	第5回	平成27年 3月14日(土) 13:30~17:00 テーマ:施設の再編と運営を語り合おう(PM) 全体まとめ(WS)
		※ WS=ワークショップ、PM=パブリックミーティング

ファシリテーター 志村秀明氏(芝浦工業大学 工学部建築学科 教授)
倉斗綾子氏(千葉工業大学 工学部デザイン科学科 助教)
西尾真治氏(さいたま市公共施設マネジメントアドバイザー)

主催 さいたま市(都市戦略本部行財政改革推進部)
運営支援 特定非営利活動法人都市づくりNPOさいたま など

第1回 振り返り・キックオフ 平成26年9月25日

- ワールドカフェ方式(4テーブルに分かれて)
今年度からの参加者が各テーブルをまわる
昨年度参加者が、昨年度の様子・成果を説明
- 参加者の一体感づくり



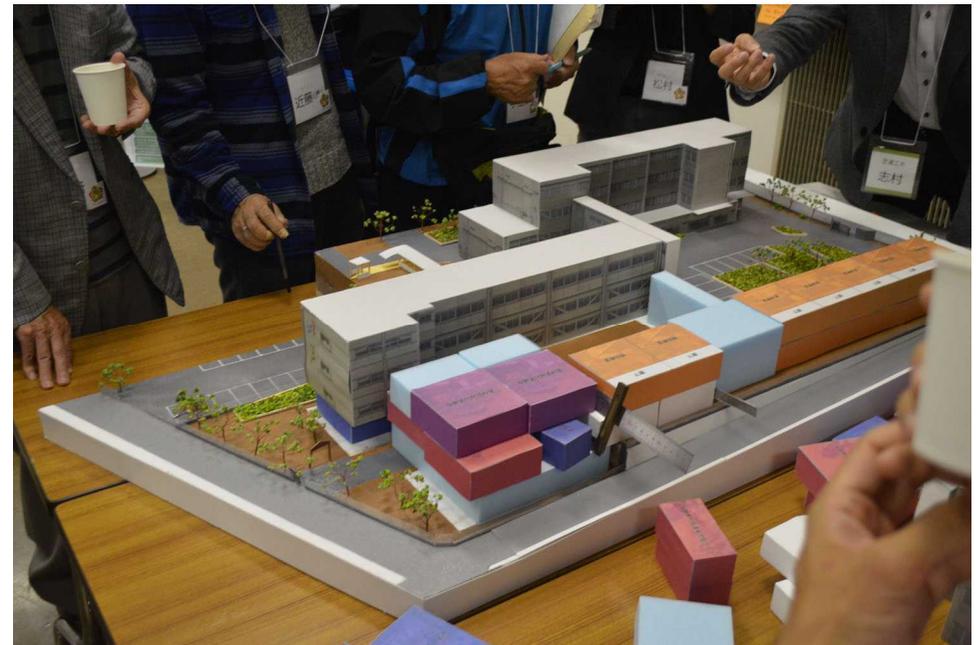
テーブルでの意見交換



現況模型(1/100)で今後の進め方を確認

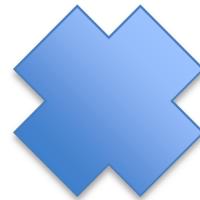
第2回 複合化の検討 平成26年10月23日

- デザインゲーム
複合化する公共施設の決定(カード)
配置案の検討(平面図+カード)
配置案の確認・再検討(1/100模型)
- 意見交換会・模型展示の検討



学校施設と他の公共施設複合化の留意点

- 多世代交流：家庭では、3世代交流の機会がない
- 地域学習：地域愛・コミュニティを育む、
＋日常の体験からの知的体力を強化
- 分担とシェア：学校教育の限界（スタッフ、予算、施設）
学校：基本的教育メニュー
地域：オプションメニュー（充実した教育へ）
施設の相互利用



既存公共施設の再編・合理化

市民参加（ワークショップ）などを実施
市民＝プラス思考へ、前向きな姿勢へ
→効果的な教育へ